

令和7年度

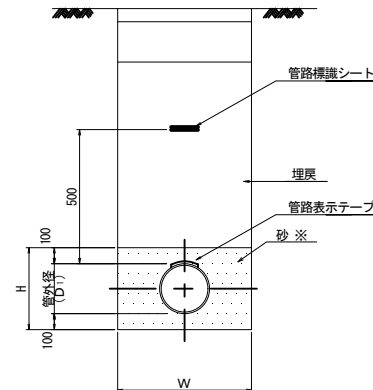
# 標準構造図

岡崎市上下水道局上下水道部下水道工事課

## 標準構造図・目次

図面番号	図 面 名 称	公社図面番号(参考)
001	土工・硬質塩化ビニル管	108・202
002	土工・鉄筋コンクリート管	101・202
101	0号組立マンホール標準図	308
102	1号組立マンホール標準図	309
103	2号組立マンホール標準図	310
104	馬蹄・楕円形組立マンホール標準図	312
105-1	下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール	318
105-2	下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール(落差点)	321
106	副管工詳細図・Aタイプ	314-1
107-1	副管工詳細図	
111	1号組立マンホール標準図(レジンコンクリート製)	
112	2号組立マンホール標準図(レジンコンクリート製)	
113	3号組立マンホール標準図(レジンコンクリート製)	
201-1	φ 200 公共枳設置標準図 取付管径:分流汚水区域 φ 100	
201-2	φ 200 公共枳設置標準図(取付管立ち上がり) 取付管径:分流汚水区域 φ 100	
201-3	φ 200 公共枳設置標準図 取付管径:合流区域 φ 150(100)	
213	雨水取付管標準図(取付管 φ 150)	205
301	アルミ(軽量鋼)矢板土留設置工標準図	
401	舗装復旧工詳細図・国県道	502・503
401-1	舗装復旧工詳細図・国県道(乗入部)	
402	舗装復旧工詳細図・市道	

# 土工・硬質塩化ビニル管



寸法数量表

(単位：mm)

管径 (D)	管外径 (D <sub>1</sub> )	基礎高 (H)	素掘(1.5m以下：直掘)				アルミ(軽量鋼)矢板			
			掘削幅 W				掘削幅 W			
			人力	BH0.13	BH0.28	BH0.45	人力	BH0.13	BH0.28	BH0.45
150	165	370	550	550	600	750	800	900	1050	1200
200	216	420	600	600	600	750	850	900	1050	1200
250	267	470	650	650	650	750	900	900	1050	1200
300	318	520	700	700	700	750	950	950	1050	1200
350	370	570	750	750	750	750	1050	1050	1050	1200
400	420	620	800	800	800	800	1100	1100	1100	1200
450	470	670	850	850	850	850	1150	1150	1150	1200

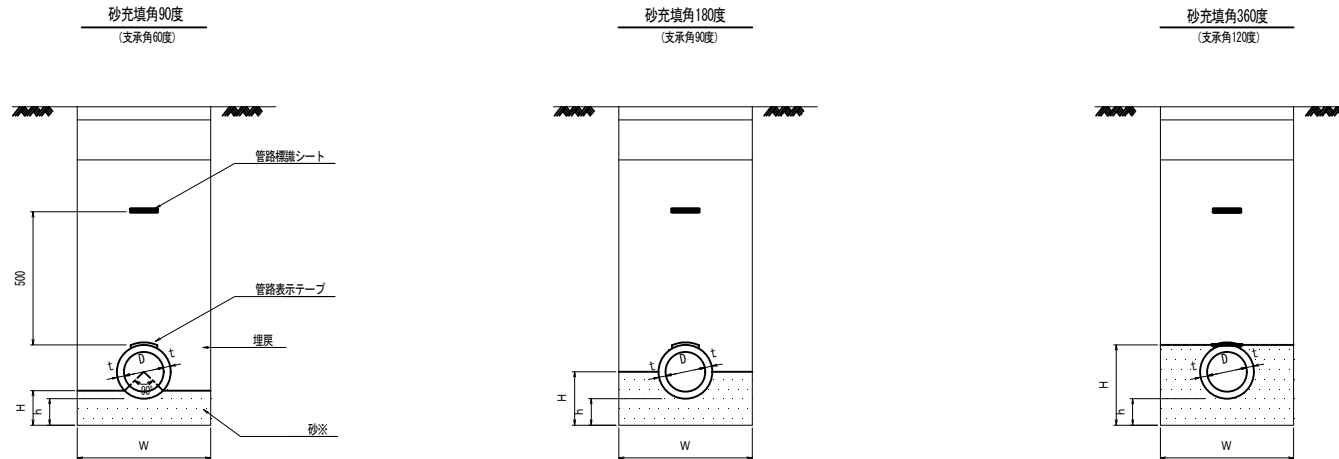
$$\text{砂量} = W \times H - \pi / 4 \times D^2$$

注：上記標準図は砂基礎（砂充填角度90°、180°、360°）に砂埋戻し（管上10cm）を含む。

※：改良土、再生砂等、砂と同等品を含み、使用にあたっては、リサイクルの観点に留意する。

図名	土工・硬質塩化ビニル管		
分類	D	図番	001
改訂年月日	平成30年4月1日		

# 土工・鉄筋コンクリート管



寸法数量表

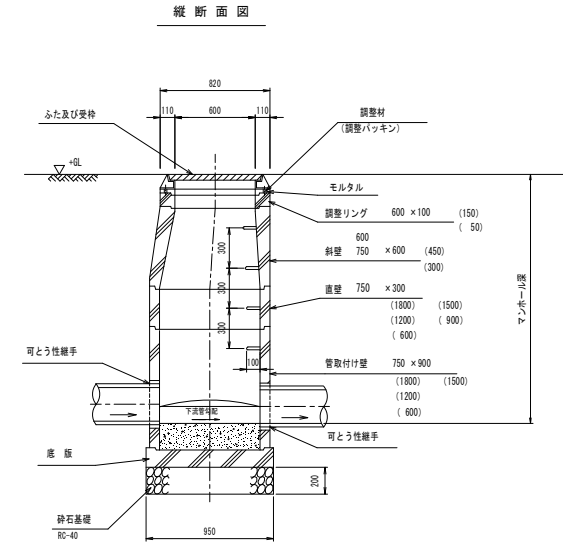
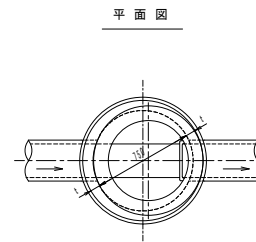
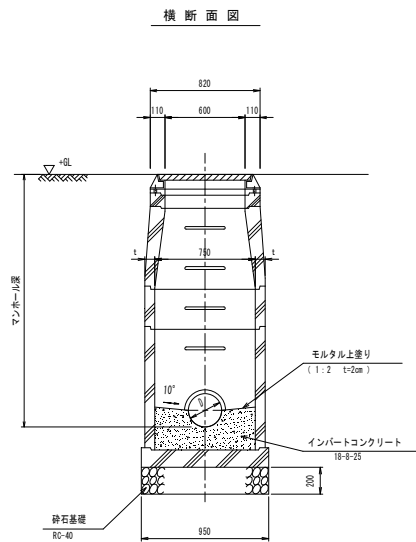
呼び径 D	管厚 t	h	管外径 D1	砂基礎高 H			素掘 (1.5m以下・直掘)				アルミ (軽量鋼) 矢板			
							掘削幅 W				掘削幅 W			
				90°	180°	360°	人力	BH0.13	BH0.28	BH0.45	人力	BH0.13	BH0.28	BH0.45
150	26	100	202	130	210	310	600	600	600	750	850	900	1,050	1,200
200	27	100	254	140	230	360	650	650	650	750	900	900	1,050	1,200
250	28	100	306	150	260	410	700	700	700	750	950	950	1,050	1,200
300	30	100	360	160	280	460	750	750	750	750	1,000	1,000	1,050	1,200
350	32	100	414	170	310	520	800	800	800	800	1,050	1,050	1,050	1,200
400	35	150	470	220	390	620	850	850	850	850	1,150	1,150	1,150	1,200
450	38	150	526	230	420	680	900	900	900	900	1,200	1,200	1,200	1,200
500	42	150	584	240	450	740	—	—	—	—	1,250	1,250	1,250	1,250
600	50	150	700	260	500	850	—	—	—	—	1,350	1,350	1,350	1,350
700	58	200	816	320	610	1,020	—	—	—	—	1,450	1,450	1,450	1,450
800	66	200	932	340	670	1,140	—	—	—	—	1,600	1,600	1,600	1,600
900	75	200	1,050	360	730	1,250	—	—	—	—	1,700	1,700	1,700	1,700
1,000	82	200	1,164	380	790	1,370	—	—	—	—	1,800	1,800	1,800	1,800

$$\text{砂量} = W \times H - \left[ \frac{D1^2}{4} \times \pi \times \left( \frac{\text{充填角 } \theta}{360} \right) - D1/2 \times \cos(\theta/2) \times D1 \times \sin(\theta/2) \times 1/2 \right]$$

※：改良土、再生砂等、砂と同等品を含み、使用にあたっては、リサイクルの観点に留意する。

図 名	土工・鉄筋コンクリート管		
分 類	D	図 番	002
改訂年月日	平成22年4月1日		

0号組立マンホール標準図



底部工材料表

1箇所当り

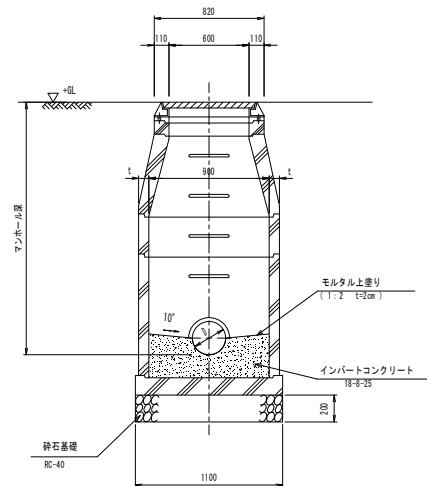
種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC-40	$0.95 \times 0.95$	m <sup>2</sup>	0.90
コンクリート	18-8-25 VUφ150		m <sup>3</sup>	0.09
	18-8-25 VUφ200		m <sup>3</sup>	0.09
モルタル上塗り工	t=2cm VUφ150		m <sup>2</sup>	0.72
	t=2cm VUφ150		m <sup>3</sup>	0.01
	t=2cm VUφ200		m <sup>2</sup>	0.72
	t=2cm VUφ200		m <sup>3</sup>	0.02

※1 その他の管径は別途考慮する。

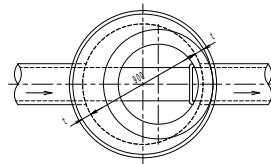
注：壁厚tは「JSWAS-A-11」を参照のこと。

図名	0号組立マンホール標準図		
分類	M	図番	101
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

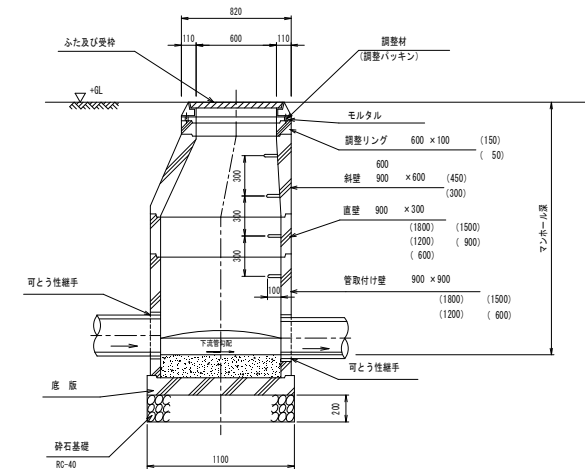
横断面図



平面图



縱断面図



底部工材料表

1箇所当り

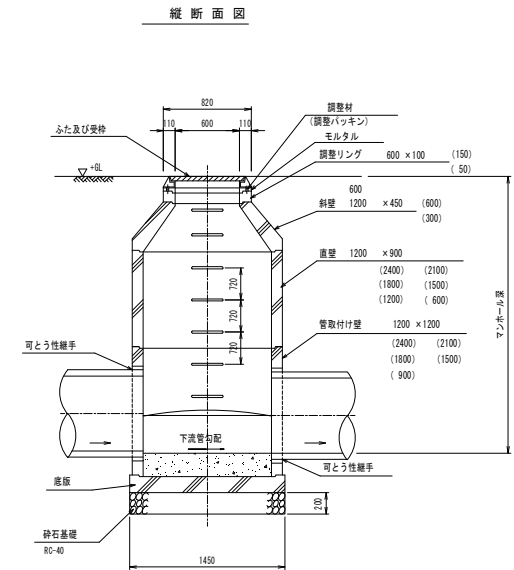
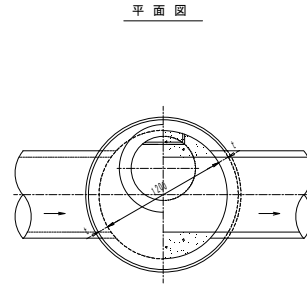
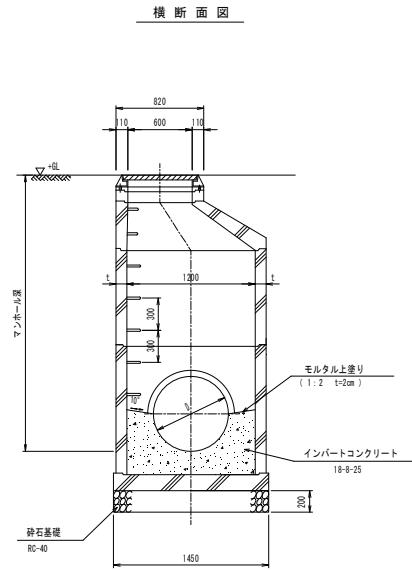
種 別	形 状 ・ 寸 法	計 算 式	単 位	数 量
砕 石 基 礎	RC-40	$1.10 \times 1.10$	m <sup>2</sup>	1.21
コンクリート	18-8-25 VUφ150		m <sup>3</sup>	0.13
	18-8-25 VUφ200		m <sup>3</sup>	0.14
モルタル上塗り工	t=2cm VUφ150		m <sup>2</sup>	0.97
			m <sup>3</sup>	0.02
	t=2cm VUφ200		m <sup>2</sup>	1.06
			m <sup>3</sup>	0.02

※1 その他の管径は別途考慮する。

注：壁厚 $t$ は「JSWAS-A-11」を参照のこと。

図 名	1号組立マンホール標準図		
分 類	M	図 番	102
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

2号組立マンホール標準図



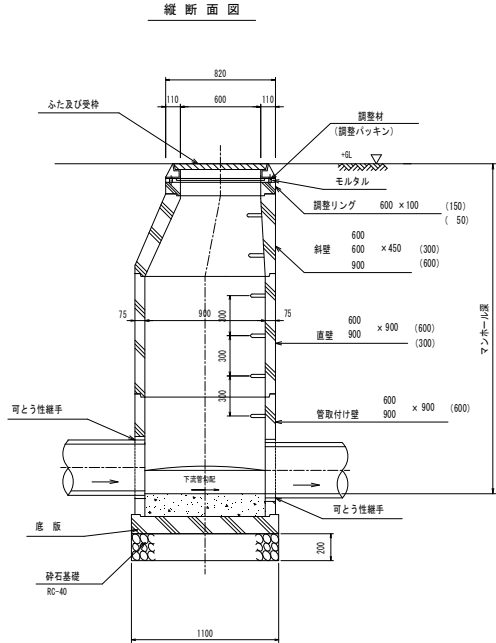
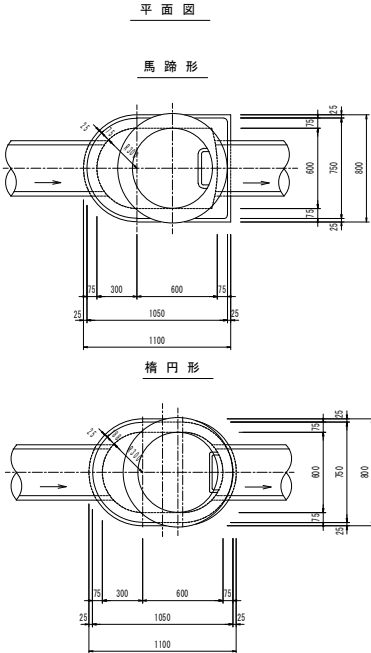
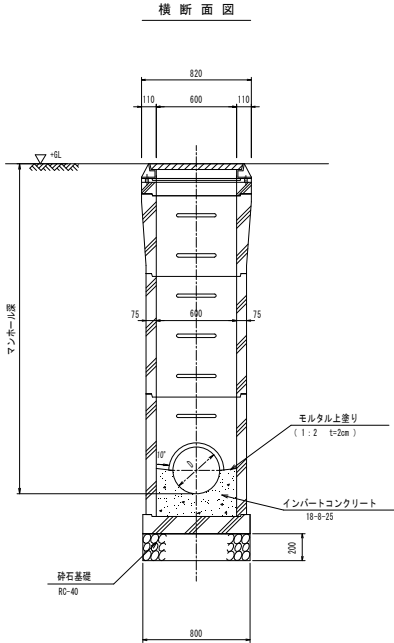
底部工材料表			1箇所当り	
種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC-40	1.45×1.45	m <sup>2</sup>	2.10
	18-8-25 VUφ700		m <sup>3</sup>	0.35
コンクリート	18-8-25 VUφ800		m <sup>3</sup>	0.34
	t=2cm VUφ700		m <sup>2</sup>	2.98
モルタル上塗り工	t=2cm VUφ700		m <sup>3</sup>	0.06
	t=2cm VUφ800		m <sup>2</sup>	3.24
	t=2cm VUφ800		m <sup>3</sup>	0.06

※1 その他の管径は別途考慮する。

注：壁厚t1・tは「JSWAS-A-11」を参照のこと。

図名	2号組立マンホール標準図		
分類	M	図番	103
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

馬蹄・楕円形組立マンホール標準図



底部工材料表(楕円人孔)

種 別	形状・寸法	計 算 式	単 位	数 量
砕 石 基 礎	RC-40	$0.80 \times 1.10$	$m^2$	0.88
コンクリート	18-8-25 VU $\phi$ 150		$m^3$	0.09
	18-8-25 VU $\phi$ 200		$m^3$	0.09
モルタル上塗り工	t=2cm VU $\phi$ 150		$m^2$	0.79
	t=2cm VU $\phi$ 150		$m^2$	0.02
	t=2cm VU $\phi$ 200		$m^2$	0.89
			$m^3$	0.02

※1 その他の管径は別途考慮する。

底部工材料表(馬蹄人孔)

種 別	形状・寸法	計 算 式	単 位	数 量
砕 石 基 礎	RC-40	$0.80 \times 1.10$	$m^2$	0.88
コンクリート	18-8-25 VU $\phi$ 150		$m^3$	0.10
	18-8-25 VU $\phi$ 200		$m^3$	0.10
モルタル上塗り工	t=2cm VU $\phi$ 150		$m^2$	0.83
	t=2cm VU $\phi$ 150		$m^2$	0.02
	t=2cm VU $\phi$ 200		$m^2$	0.93
			$m^3$	0.02

※1 その他の管径は別途考慮する。

(参考図)

図 名	馬蹄・楕円形組立マンホール標準図		
分 類	M	図 番	104
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		



下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール

下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール  
J S W A S K - 9 - 2 0 0 8  
J S W A S G - 3 - 2 0 0 5

表-1 インパート部の種類

設置箇所	種類	略号	マンホール径	管径
起 点	90度曲り ほか	90L右, 90L左 ほか	300	150, 200, 250
中間点	ストレート	S T	300	150, 200, 250

表-2 立上り部の種類

種 類	略号	呼び径	備考
差し口形立上り部	M V U	300	ゴム輪受口形インパート部用
ゴム輪受口形立上り部	M V R	300	差し口形インパート部用

設 置 例

小型マンホール設置例を次図に示す。

ストレートインパート部の設置例

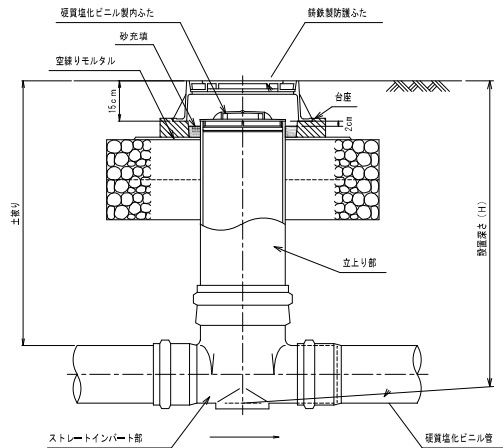
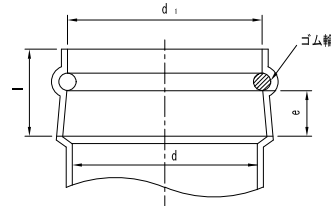
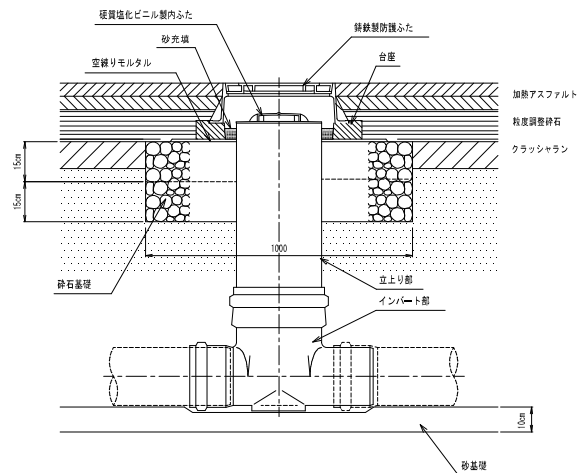


図-1 立上り接合部ゴム輪受口寸法（共通）

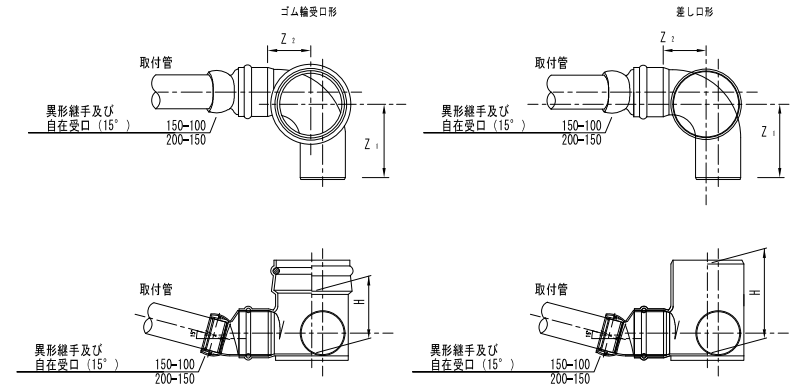


舗装及び台座基礎部断面



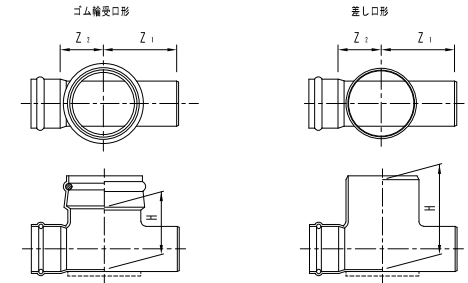
※：防護ふた設置は砕石で微調整がしにくい場合は、空練りモルタルを薄く敷均して行う。  
※：軟弱な地盤では、底面の一部を砕石で置き換え、支持力を増してから砂基礎（10cm）を設ける。  
※：起点に使用するインパートの種類は取付状況に応じて適宜選定する。

図-2 起点 設置例（略号 90L右, 90L左）



※ 異形継手及び自在受口（15°）について  
同等の性能を有する構造のもの（自在受口異径継手など）を使用しても良い。  
※ 本管径が200mmかつ取付管径が100mmの場合は  
偏心ソケットなどを追加し、取付管を接続すること。

図-3 ストレート（略号 ST）



※ 鉄鉄蓋について  
鉄鉄蓋の銘柄については指定なし。  
ただし、公共樹用（ミカワクロマツ）の蓋は使用しない。

マンホール径	防護蓋 （種）	台 座 （個）
300	1.0	1.0

図 名	下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール		
分 類	M	図 番	105-1
改訂年月日	令和 2 年 4 月 1 日		

下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール(落差点)

下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール  
J S W A S K-9-2008  
J S W A S G-3-2005

施工上の注意点

※：落差点において起点型（K T）及びドロップ型（D R）は使用しないこと

※：くらを切断加工しないこと

表-1 インパート部の種類

設置箇所	種類	略号	マンホール径	管径
落差点	起点型ドロップ	K D R	300	150, 200, 250
勾配変化点	全種類	—	300	150, 200, 250

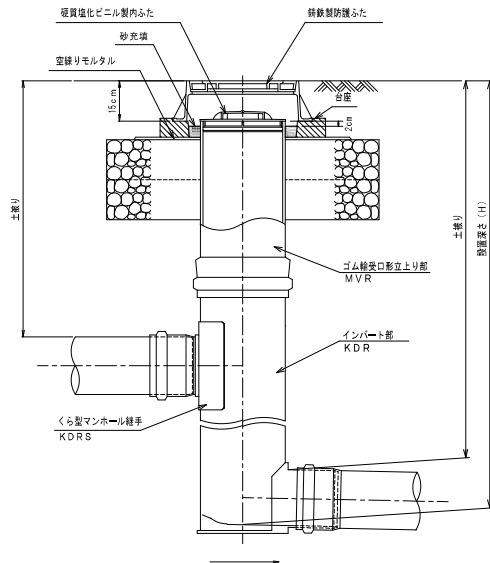
表-2 立上り部の種類

種 類	略号	呼び径	備考
ゴム輪受口形立上り部	M V R	300	差し口形インパート部用

設 置 例

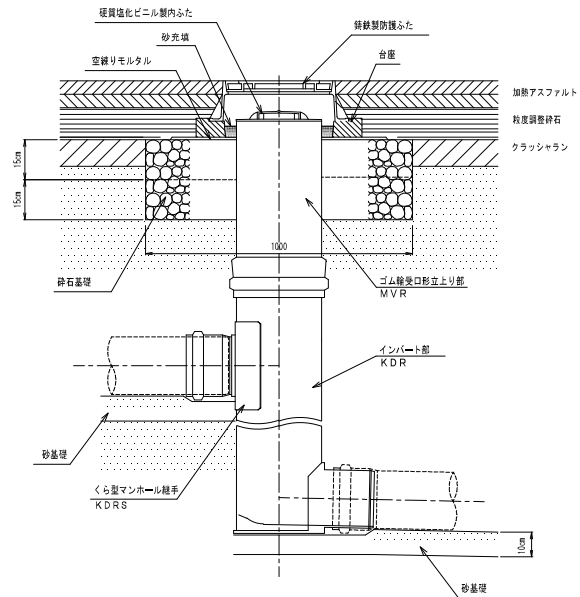
小型マンホール設置例を次図に示す。

起点ドロップインパート部の設置例

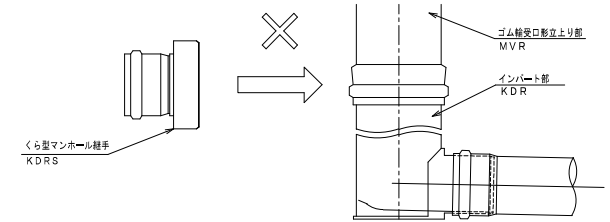


マンホール径	防護蓋 (種)	台 座 (個)
300	1.0	1.0

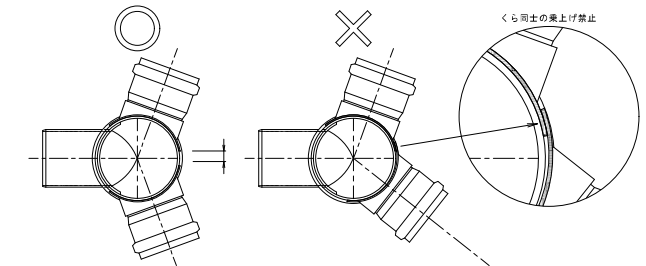
舗装及び台座基礎部断面



※：防護ふたの設置は碎石で微調整がしにくい場合は、空練りモルタルを薄く敷均して行う。  
※：軟弱な地盤では、底面の一部を碎石で置き換え、支持力を増してから砂基礎（10cm）を設ける。



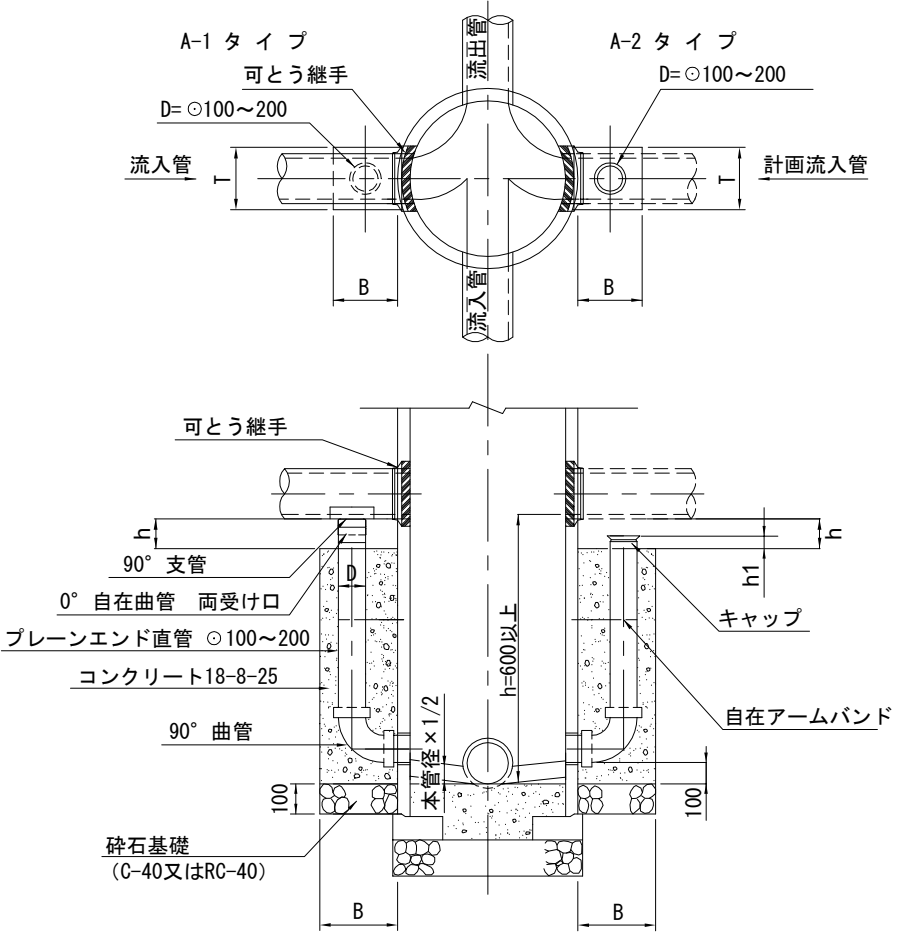
※：立上り接合部にKDRSを取り付けないこと



※：1箇所のマンホールに取付可能なKDRSは基本的に2個までとし、くら同士が乗り上げたりしないよう取付ける

図 名	下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール(落差点)		
分 類	M	図 番	105-2
改訂年月日	令和 3 年 10 月 1 日		

組立マンホール用



副管工材料

1箇所当り

副管径 (mm)	段 差 (cm)	型 枠 (m <sup>2</sup> )	コンクリート (m <sup>3</sup> )	基礎工 (m <sup>2</sup> )	プレキャスト <sup>*</sup> 直管(本)	90° 曲管 (本)	0° 自在曲管 (本)	カラー (本)
100	100	0.818	0.084	0.120	0.13	1	1	—
	150	1.368	0.138	0.120	0.25	1	1	—
	200	1.918	0.193	0.120	0.38	1	1	—
	250	2.468	0.248	0.120	0.50	1	1	—
150	100	0.804	0.091	0.150	0.10	1	1	—
	150	1.429	0.157	0.150	0.23	1	1	—
	200	2.054	0.227	0.150	0.35	1	1	—
	250	2.679	0.295	0.150	0.48	1	1	—
200	100	0.829	0.104	0.200	0.06	1	(1)	1
	150	1.529	0.182	0.200	0.19	1	(1)	1
	200	2.229	0.267	0.200	0.31	1	(1)	1
	250	2.929	0.349	0.200	0.44	1	(1)	1

自在曲管：括弧は片受け口の場合

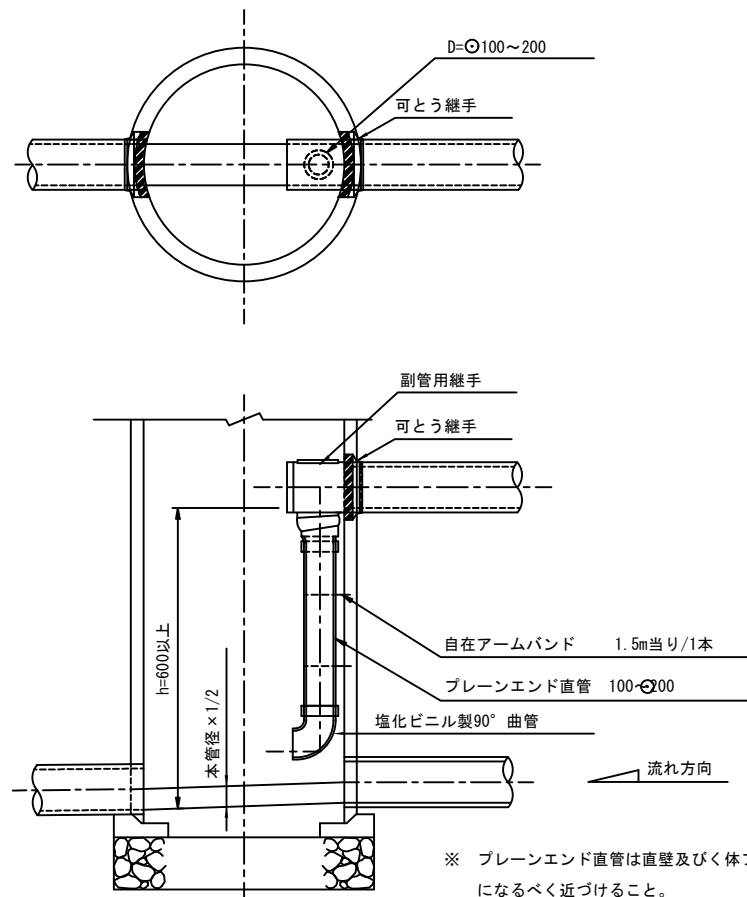
※流入管が計画管の場合は90° 支管は付けずキャップ止めとする。  
アームバンドは必要に応じて使用（キャップ 止めの場合等）する。  
計画流入管のための副管は将来施工時、場合によりカットし接続する。  
副管径φ200mm場合は0度自在曲管（自在片受口）とカラーの組み合わせとする。

本管径	副 管 部			Co高	VU長さ
	D	B	T	h	h1
150	100	400	300	300	200
200	150	450	350	400	250
250~400	200	500	400	450	200

(本管ヒューム管, 塩ビ管) 可とう性を持たせたもの

図 名	副管工詳細図・Aタイプ		
分 類	M	図 番	106
改訂年月日	平成 20 年 3 月 26 日		

内 副 管 タ イ プ



※ プレーンエンド直管は直壁及びく体ブロック  
になるべく近づけること。

※ 副管用継手は省スペース型のものとしてもよい。

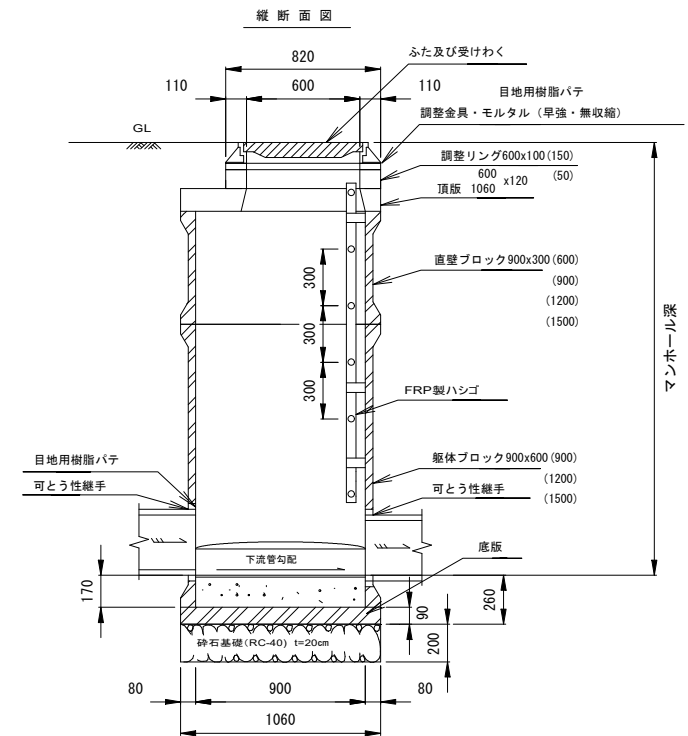
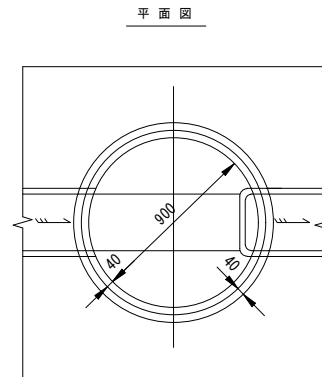
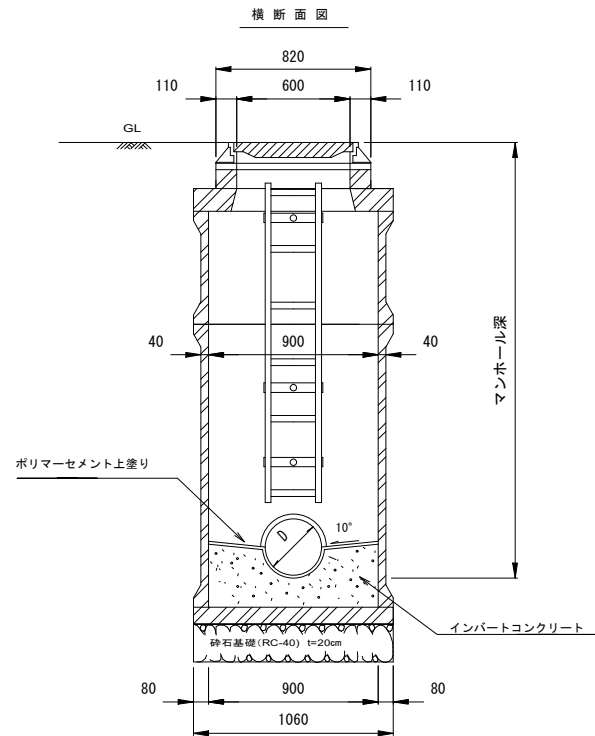
※ 内副管の設置下に本管流入がない場合は90° 曲管を  
インパートまで設置させる。

(単位 : mm)

本 管 径	副 管 径
150	100
200	150
250	200

図 名	副管工詳細図		
分 類	M	図 番	107-1
改訂年月日	令和 7 年 4 月 1 日		

1号組立マンホール標準図（レジンコンクリート製）



底部工材料表

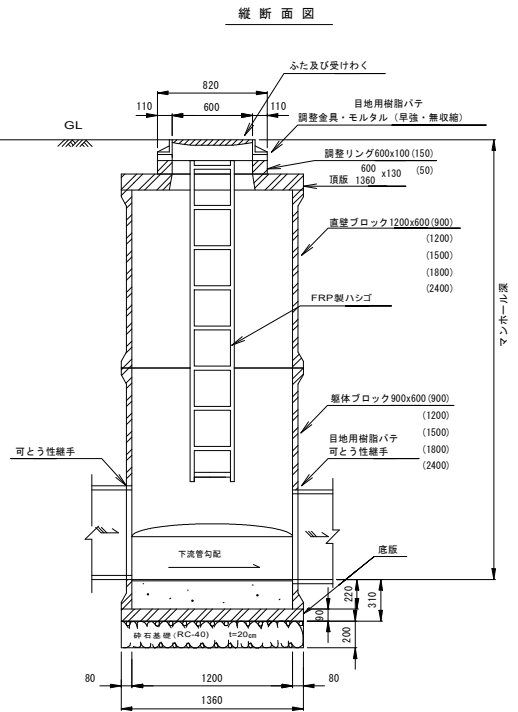
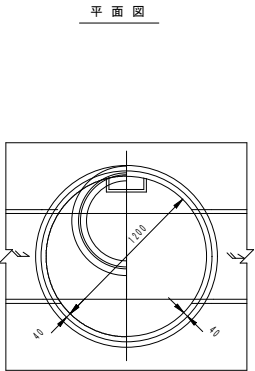
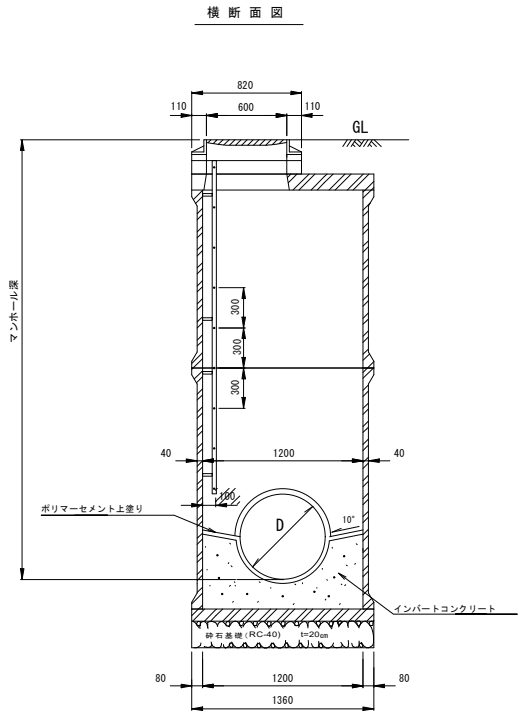
1箇所当り

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC-40	$1.06 \times 1.06$	m <sup>2</sup>	1.12
コンクリート	18-8-25 VUφ150		m <sup>3</sup>	0.13
	18-8-25 VUφ200		m <sup>3</sup>	0.14
ポリマーセメント 上塗り工	t=2cm VUφ150		m <sup>2</sup>	0.97
	t=2cm VUφ150		m <sup>2</sup>	0.02
	t=2cm VUφ200		m <sup>2</sup>	1.06
	t=2cm VUφ200		m <sup>2</sup>	0.02

※1 その他の管径は別途考慮する。

図名	1号組立マンホール標準図 (レジンコンクリート製)		
分類	M	図番	111
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

2号組立マンホール標準図（レジンコンクリート製）

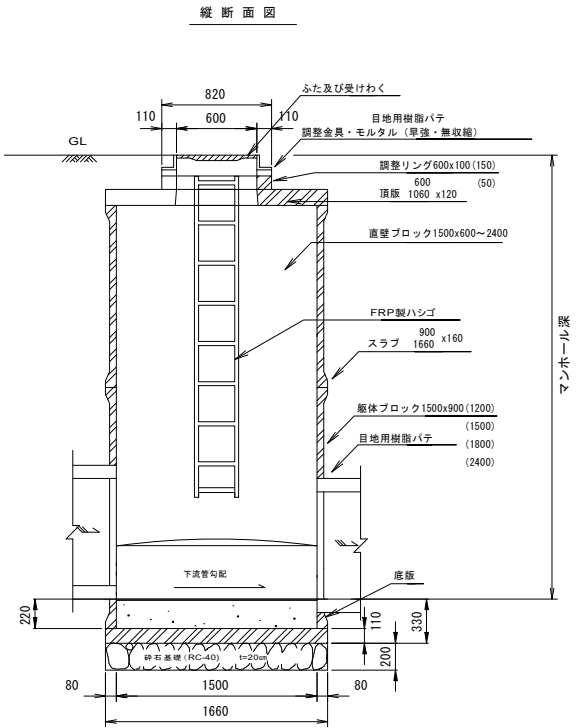
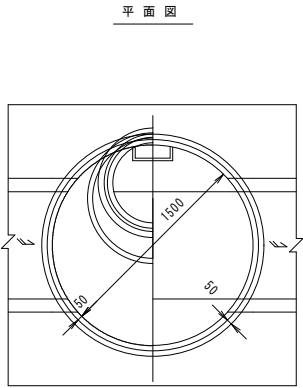
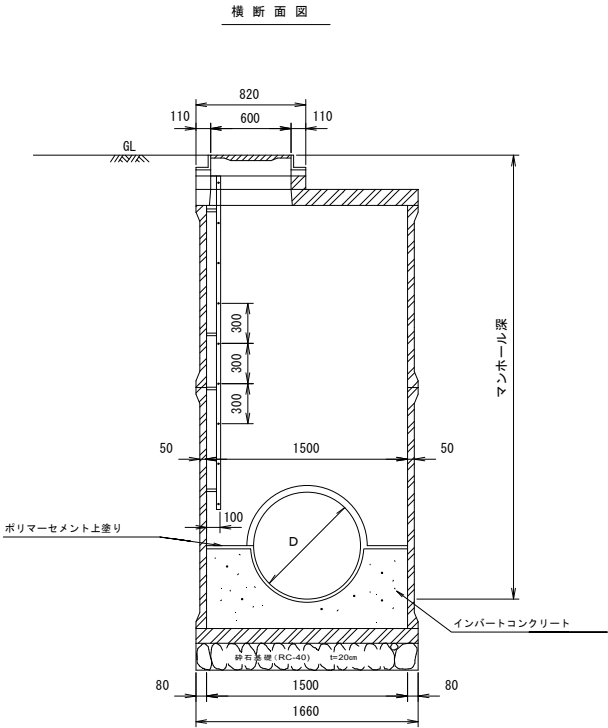


底部工材料表			1箇所当り	
種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC-40	1.20×1.20	m <sup>2</sup>	1.44
コンクリート	18-8-25 VUφ700		m <sup>3</sup>	0.35
	18-8-25 VUφ800		m <sup>3</sup>	0.34
ポリマーセメント 上塗り工	t=2cm VUφ700		m <sup>2</sup>	2.98
			m <sup>3</sup>	0.06
	t=2cm VUφ800		m <sup>2</sup>	3.24
			m <sup>3</sup>	0.06

※1 その他の管径は別途考慮する。

図名	2号組立マンホール標準図 (レジンコンクリート製)		
分類	M	図番	111
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

3号組立マンホール標準図（レジンコンクリート製）



底部工材料表

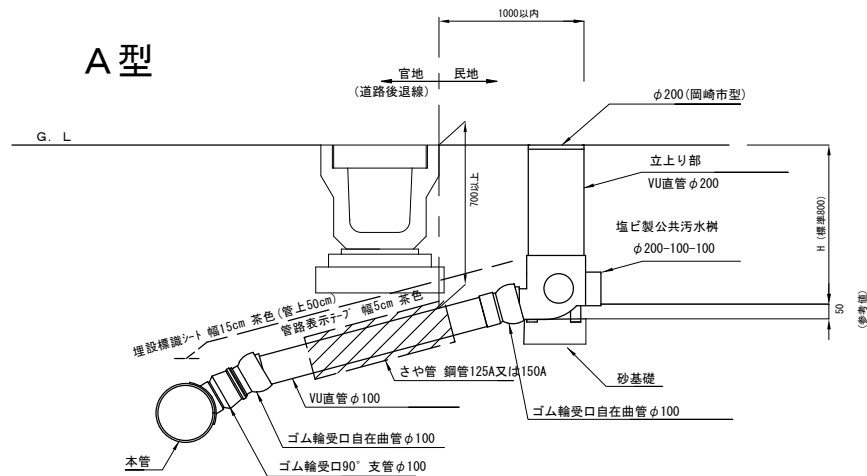
種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC-40	$1.66 \times 1.66$	m <sup>2</sup>	2.76
コンクリート	18-8-25 VUφ1000		m <sup>3</sup>	0.58
	18-8-25 VUφ1100		m <sup>3</sup>	0.54
ポリマーセメント上塗り工	t=2cm VUφ1000		m <sup>2</sup>	5.05
	t=2cm VUφ1000		m <sup>2</sup>	0.10
	t=2cm VUφ1100		m <sup>2</sup>	5.37
	t=2cm VUφ1100		m <sup>2</sup>	0.11

1箇所当り

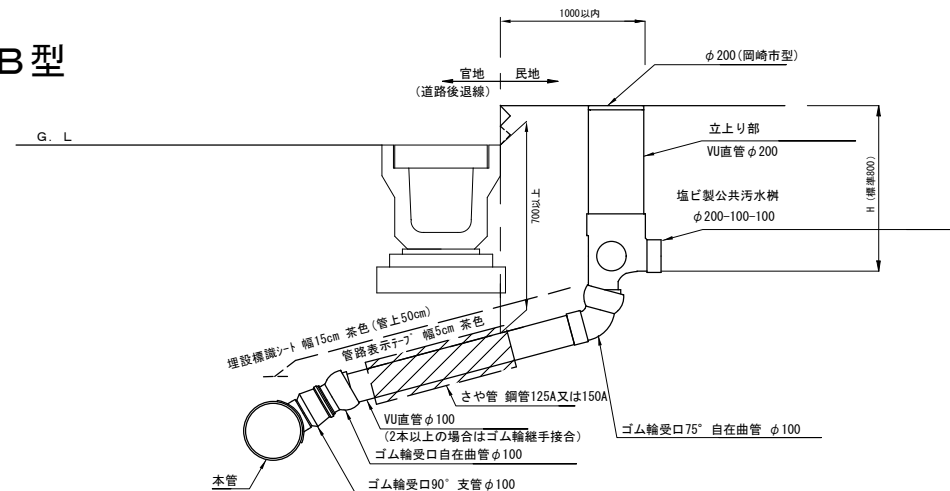
※1 その他の管径は別途考慮する。

図名	3号組立マンホール標準図 (レジンコンクリート製)		
分類	M	図番	111
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

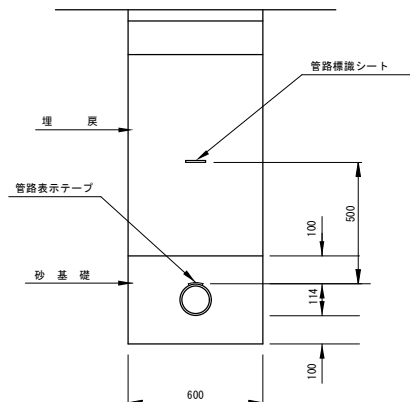
## 【分流汚水区域】



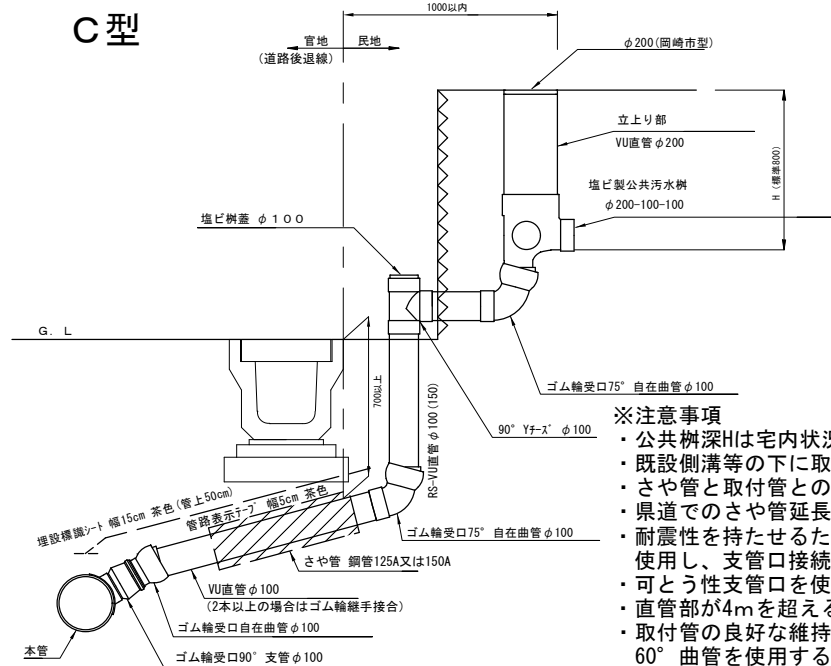
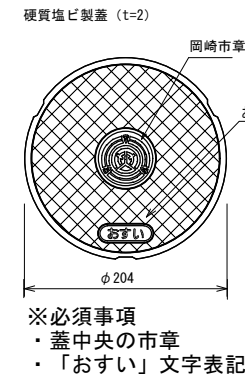
### B 型



### 取付管標準断面 (本管土被り $\leq 1.5\text{m}$ )



### φ200公共樹蓋（岡崎市型） φ300公共樹蓋（岡崎市型）



#### ※注意事項

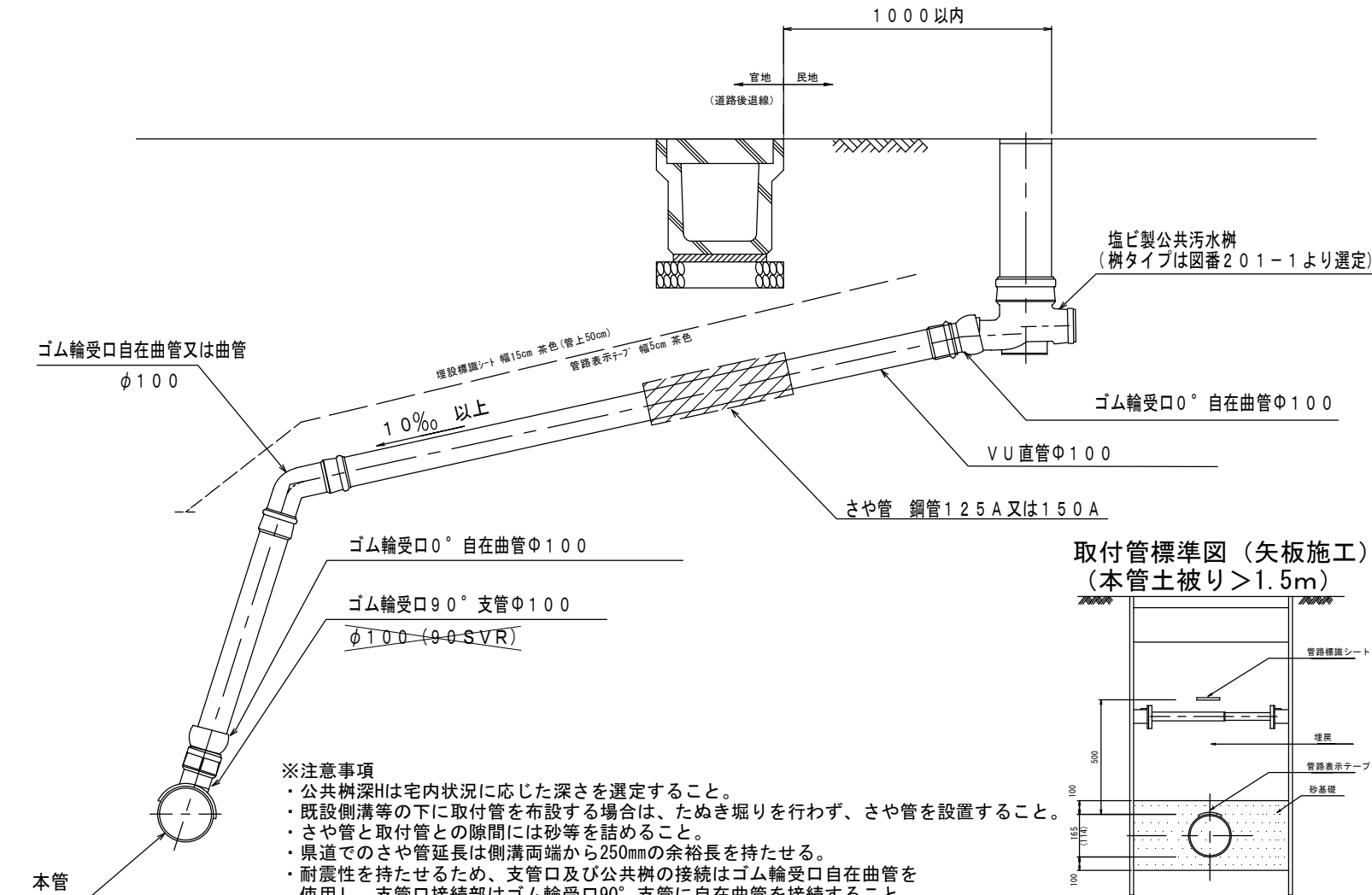
- ・公共樹深Hは宅内状況に応じた深さを選定すること。
- ・既設側溝等の下に取付管を布設する場合は、ためき掘りを行わず、さや管を設置すること。
- ・さや管と取付管との隙間には砂等を詰めること。
- ・県道でのさや管延長は側溝両端から250mmの余裕長を持たせる。
- ・耐震性を持たせるため、支管口及び公共樹の接続はゴム輪受口自在曲管を使用し、支管口接続部はゴム輪受口90°支管に自在曲管を接続すること。
- ・可とう性支管口を使用する場合は、取付管口径を確保できる部材のみ使用すること。
- ・直管部が4mを超える場合は、4mを超える毎にゴム輪接合を1箇所設けること。
- ・取付管の良好な維持管理のため、曲管は45°以下の自在曲管又は60°曲管を使用すること。
- ・自在曲管は5°以上鋭角側への曲げて使用とし、曲げ無し及び逆折れは排水の滞留が生じるため不可とする。
- ・自在曲管の振れ角に余裕を持つこと。
- ・B型、C型の公共樹接続部は75°以下の自在曲管を使用すること。

図名	φ200 公共樹設置標準図 取付管径：分流汚水区域φ100		
分類	K	図番	201-1
改訂年月日	令和 7 年 4 月 1 日		



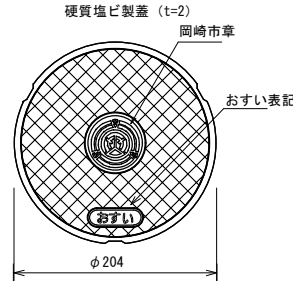
【分流汚水区域】

(取付管を立ち上げる場合)



- ※注意事項
- ・公共樹深Hは宅内状況に応じた深さを選定すること。
  - ・既設側溝等の下に取付管を布設する場合は、ためき掘りを行わず、さや管を設置すること。
  - ・さや管と取付管との隙間には砂等を詰めること。
  - ・県道でのさや管延長は側溝両端から250mmの余裕長を持たせる。
  - ・耐震性を持たせるため、支管口及び公共樹の接続はゴム輪受口自在曲管を使用し、支管口接続部はゴム輪受口90°支管に自在曲管を接続すること。
  - ・可とう性支管口を使用する場合は、取付管口径を確保できる部材のみ使用すること。
  - ・直管部が4mを超える場合は、4mを超える毎にゴム輪接合を1箇所設けること。
  - ・取付管の良好な維持管理のため、曲管は45°以下の自在曲管又は60°曲管を使用すること。
  - ・自在曲管は5°以上鋭角側への曲げて使用とし、曲げ無し及び逆折れは排水の滞留が生じるため不可とする。
  - ・自在曲管の振れ角に余裕を持つこと。
  - ・B型、C型の公共樹接続部は75°以下の自在曲管を使用すること。

φ200公共樹蓋 (岡崎市型)



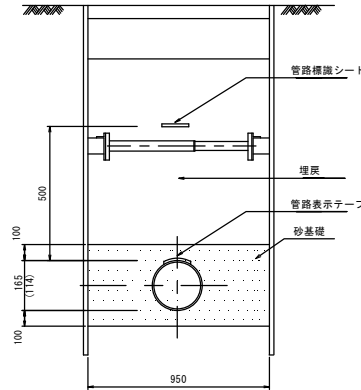
- ※必須事項
- ・蓋中央の市章
  - ・「おすい」文字表記

φ300公共樹蓋 (岡崎市型)



- ※必須事項
- ・蓋中央の市章
  - ・「おすい」文字表記

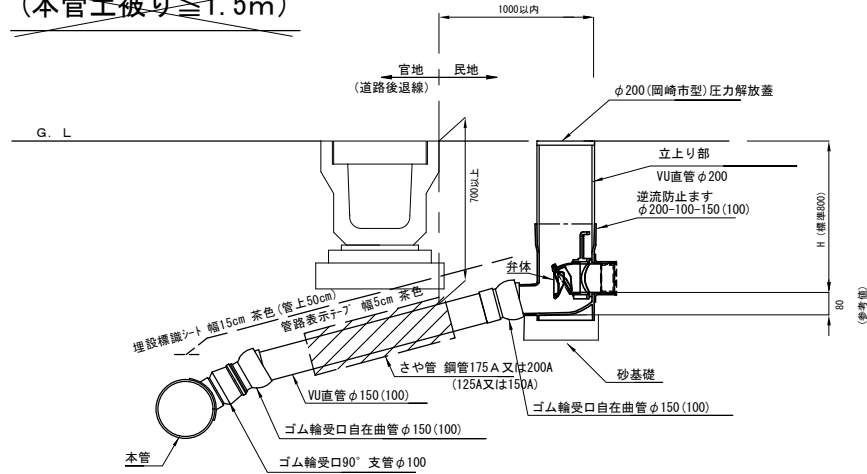
取付管標準図 (矢板施工)  
(本管土被り>1.5m)



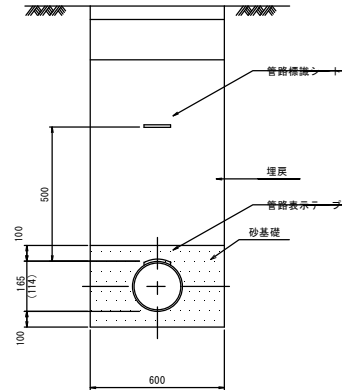
図名	φ200 公共樹設置標準図 (取付管立ち上がり) 取付管径：分流汚水区域φ100		
分類	K	図番	201-2
改訂年月日	令和 7 年 4 月 1 日		

## 【合流区域】

(本管土被り $\leq 1.5\text{m}$ )



### 取付管標準断面 (本管土被り $\leq 1.5\text{m}$ )

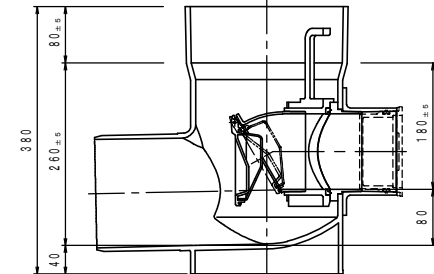


φ200公共樹逆流抑止ます

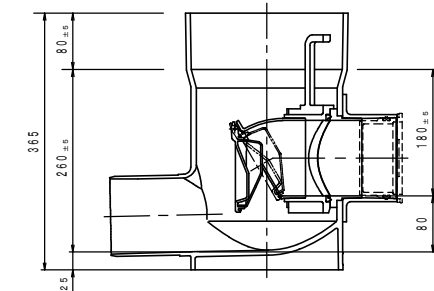
【※必須事項】

- ・弁体について  
通常時：開口構造  
マス内水位上昇：閉塞構造

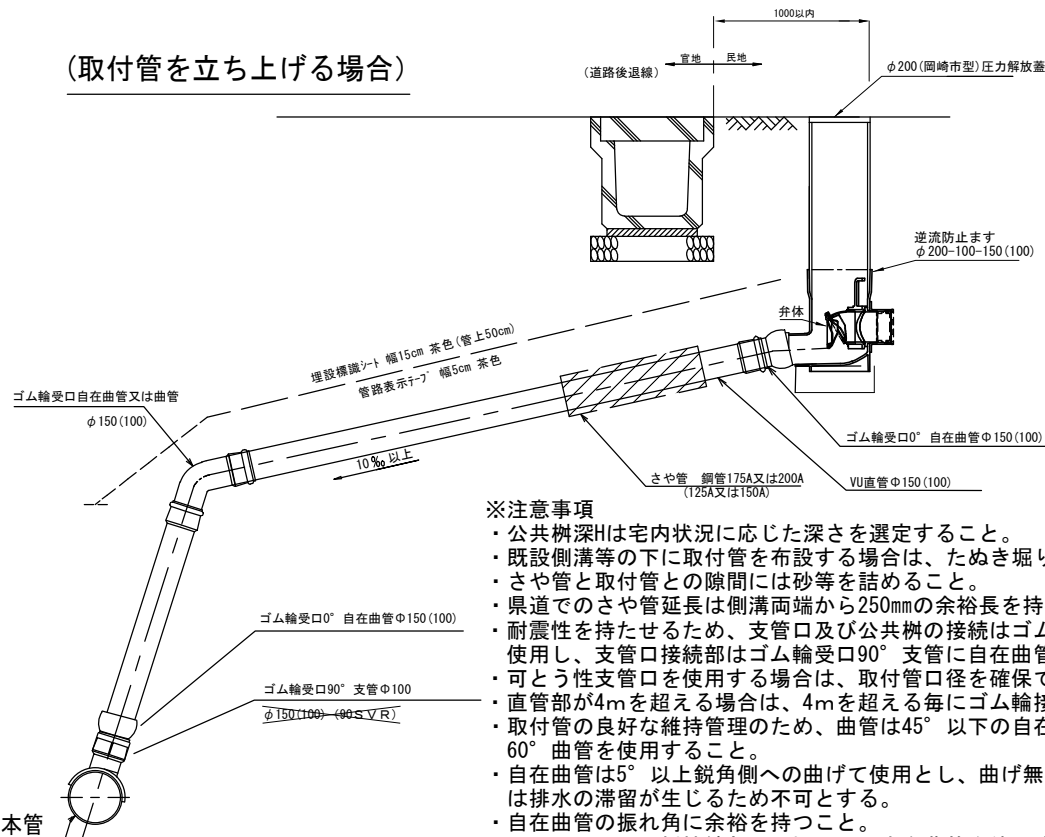
φ200-100-150



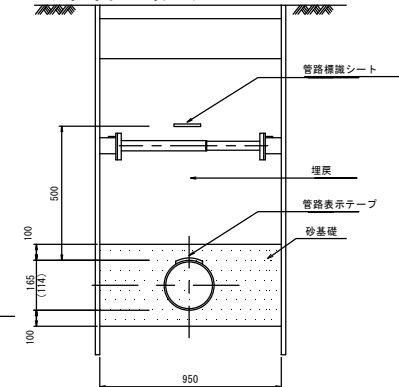
(φ200-100-100)



### (取付管を立ち上げる場合)



### 取付管標準図 (矢板施工) (本管土被り $> 1.5\text{m}$ )

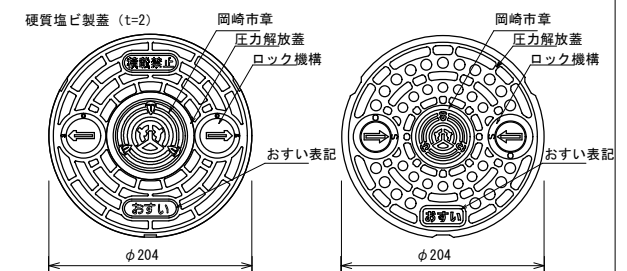


#### ※注意事項

- ・公共樹深Hは宅内状況に応じた深さを選定すること。
- ・既設側溝等の下に取付管を布設する場合は、たぬき堀りを行わず、さや管を設置すること。
- ・さや管と取付管との隙間には砂等を詰めること。
- ・県道でのさや管延長は側溝両端から250mmの余裕長を持たせる。
- ・耐震性を持たせるため、支管口及び公共樹の接続はゴム輪受口自在曲管を使用し、支管口接続部はゴム輪受口90°支管に自在曲管を接続すること。
- ・可とう性支管口を使用する場合は、取付管口径を確保できる部材のみ使用すること。
- ・直管部が4mを超える場合は、4mを超える毎にゴム輪接合を1箇所設けること。
- ・取付管の良好な維持管理のため、曲管は45°以下の自在曲管又は60°曲管を使用すること。
- ・自在曲管は5°以上鋭角側への曲げて使用とし、曲げ無し及び逆折れは排水の滞留が生じるため不可とする。
- ・自在曲管の振れ角に余裕を持つこと。
- ・B型、C型の公共樹接続部は75°以下の自在曲管を使用すること。

(φ150：合流区域内合流管渠)  
(φ100：合流区域内汚水管渠)

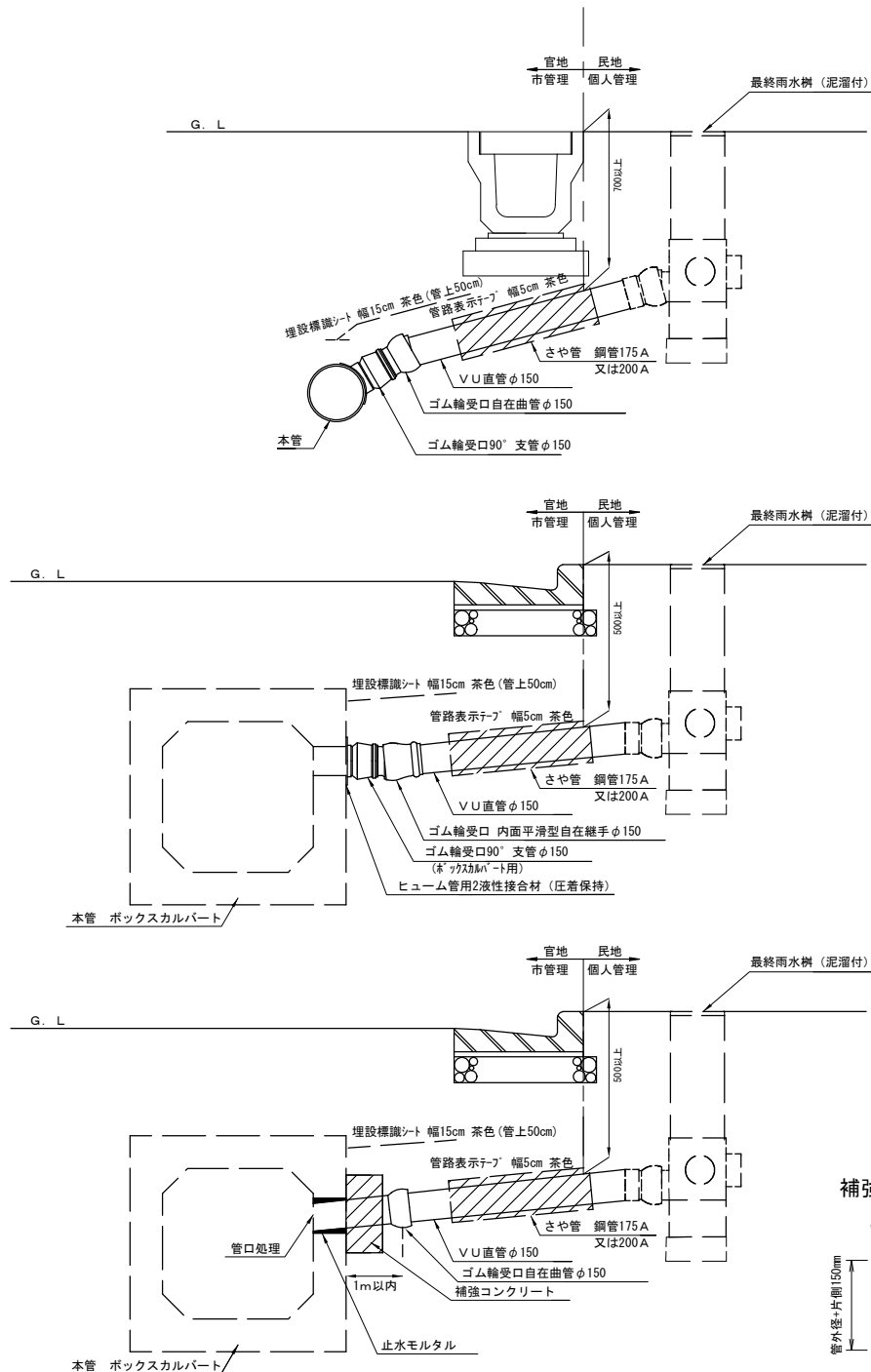
### φ200公共樹蓋 (岡崎市型)



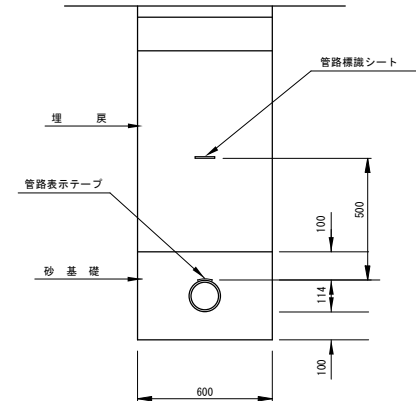
#### 【※必須事項】

- ・蓋中央の市章
- ・圧力解放蓋
- ・ロック機構
- ・「おすい」文字表記

図名	φ200 公共樹設置標準図 取付管径：合流区域φ150 (100)		
分類	K	図番	201-3
改訂年月日	令和 7 年 4 月 1 日		



取付管標準断面  
(本管土被り $\leq 1.5$ m)



#### ※注意事項

- ・既設側溝等の下に取付管を布設する場合は、ためき堀りを行わず、さや管を設置すること。
- ・さや管と取付管との隙間には砂等を詰めること。
- ・県道でのさや管延長は側溝両端から250mmの余裕長を持たせる。
- ・耐震性を持たせるため、支管口及び公共樹の接続はゴム輪受口自在曲管を使用し、支管口接続部はゴム輪受口90°支管に自在曲管を接続すること。
- ・可とう性支管口を使用する場合は、取付管口径を確保できる部材のみ使用すること。
- ・直管部が4mを超える場合は、4mを超える毎にゴム輪接合を1箇所設けること。
- ・取付管の良好な維持管理のため、曲管は60°以下の自在曲管又曲管を使用すること。
- ・自在曲管は5°以上鋭角側への曲げて使用とし、曲げ無し及び逆折れは排水の滞留が生じるため不可とする。
- ・自在曲管の振れ角に余裕を持つこと。
- ・コンクリート管への取付についてはヒューム管用2液性接合材（手塗りタイプ）を使用し、十分に圧着した状態で保持すること。

#### 補強コンクリート

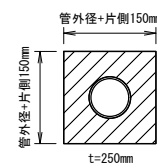
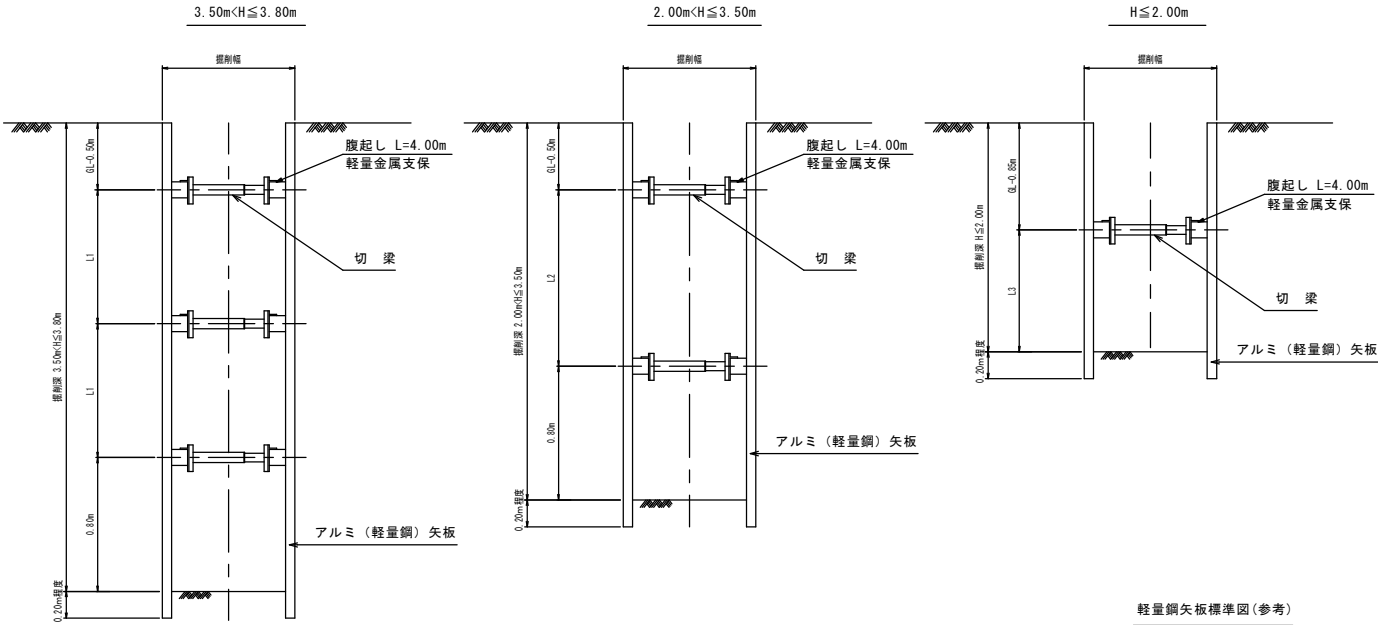


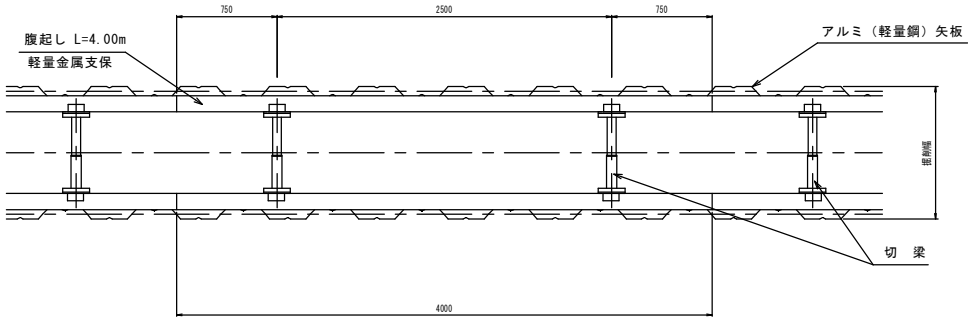
図 名	雨水取付管標準図（取付管φ150）		
分 類		図 番	213
改訂年月日	令和 7 年 4 月 1 日		

アルミ（軽量鋼）矢板土留設置工標準図

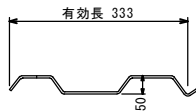
断面図



平面図



軽量鋼矢板標準図（参考）



アルミ矢板標準図（参考）



軽量鋼矢板・アルミ矢板設置基準

掘削深	支保工段数	腹起し	切梁
2.00m以下	1段支保	断面係数 120cm <sup>3</sup> 以上	水圧式又はネジ式
2.00mより大きく 3.50m以下	2段支保		
3.50より大きく 3.80m以下	3段支保		

軽量金属支保工材料表 (100m、1段当たり)

腹起し長さ 4m	腹起し材	50.0本
	切梁材	50.0本

規格性能（軽量鋼矢板）

矢板1枚につき	壁幅1mにつき
12.8 kg/m	38.4 kg/m <sup>2</sup>

規格性能（アルミ矢板）

矢板1枚につき	壁幅1mにつき
5.63 kg/m	16.9 kg/m <sup>2</sup>

（軽量金属支保）

図名	アルミ（軽量鋼）矢板土留設置工標準図		
分類	A	図番	301
改訂年月日	平成22年4月1日		

国道及び県道舗装仮復旧工

粒度調整碎石 (M-25)

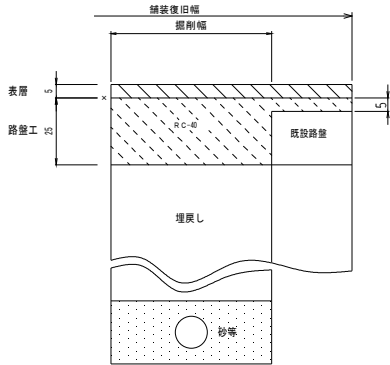
... 2層仕上げ(土破り1.2mの場合)

※4 その他状況に応じ道路管理者と立会を行い舗装復旧幅を決定する。

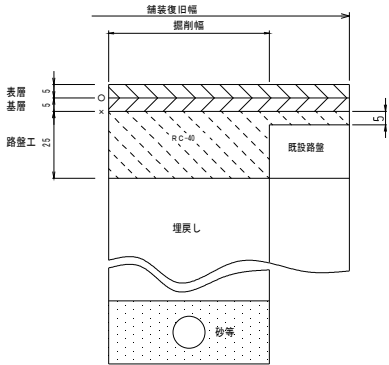
図 名	舗装復旧工詳細図・国県道		
分 類	H	図 番	401
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

アスファルト舗装

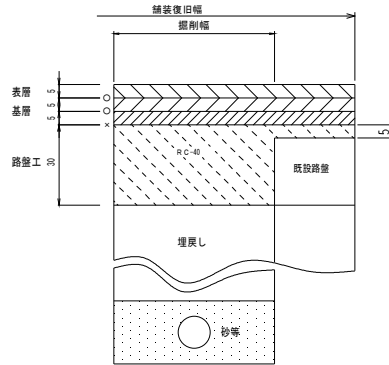
軽車両用（A型） 歩道乗入部



中車両用（B型） 歩道乗入部



重車両用（C型） 歩道乗入部



(凡例)

土被り別舗装構成の表示方法

かっこなし：土被り1.2m (1.2m以上)

[ [ ] ]：土被り0.8m (0.8mを超え1.2m未満)

- 密粒AS
- 粗粒AS
- 遊青安定処理
- 粒度調整碎石 (M-25)
- クラッシャーラン (RC-40・C-40)
- コンクリート版
- インターロッキングブロック
- タックコート
- プライムコート
- 2層仕上げ

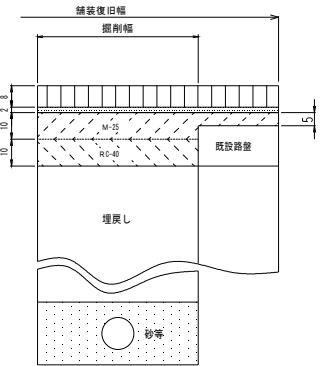
歩 道

インターロッキング舗装

インターロッキング  
ブロック  
砂

上層路盤

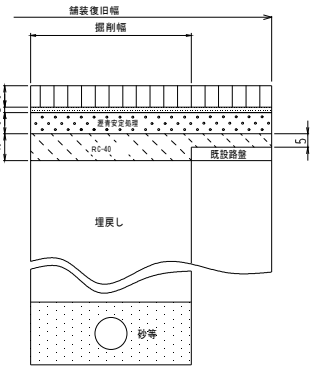
下層路盤



インターロッキング  
ブロック  
砂

上層路盤

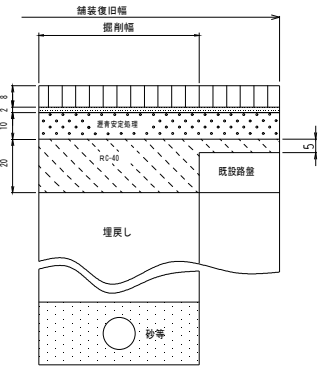
下層路盤



インターロッキング  
ブロック  
砂

上層路盤

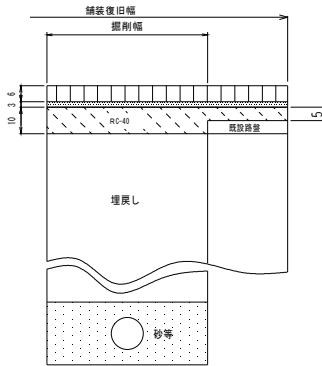
下層路盤



インターロッキング  
ブロック  
砂

上層路盤

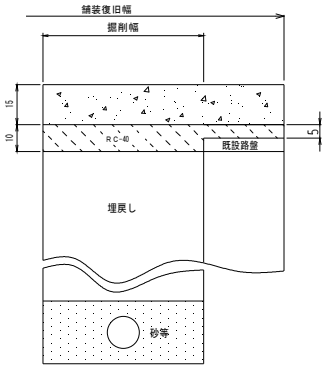
下層路盤



コンクリート舗装

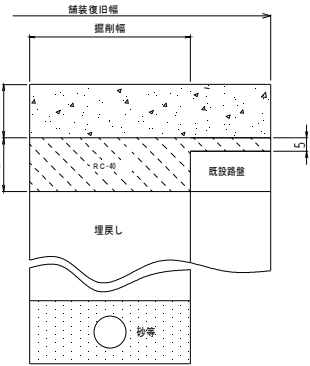
コンクリート版

路盤工



コンクリート版

路盤工



コンクリート版

路盤工

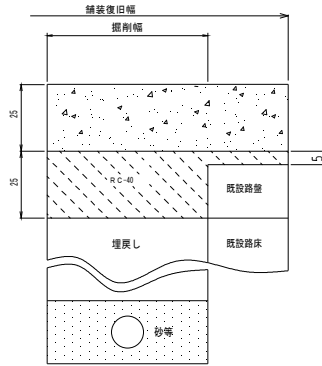
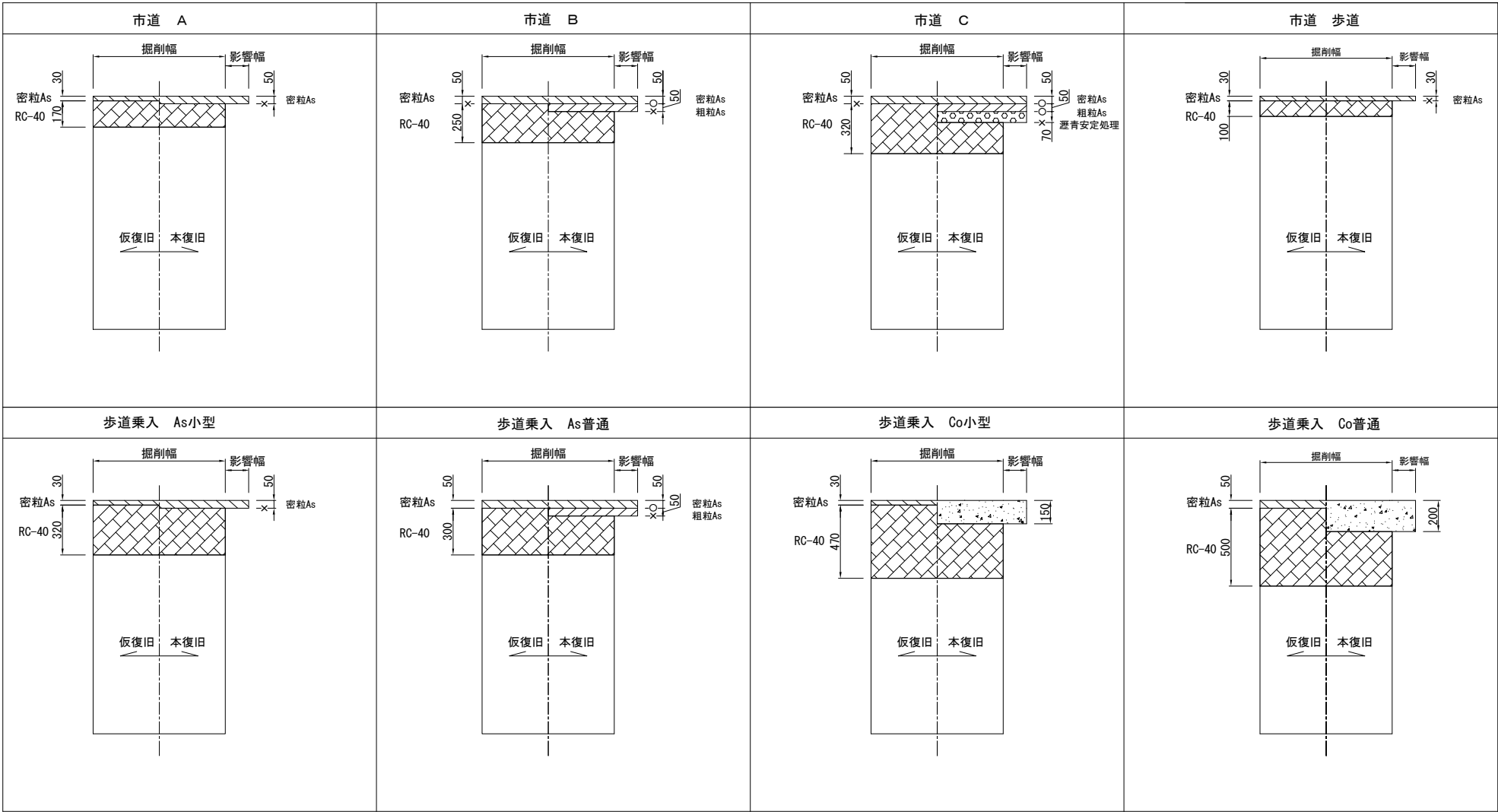


図 名 舗装復旧工詳細図・国県道（乗入部）

分 類 H 図 番 401-1

改訂年月日 平成 30 年 4 月 1 日

市道舗装復旧図



凡 例

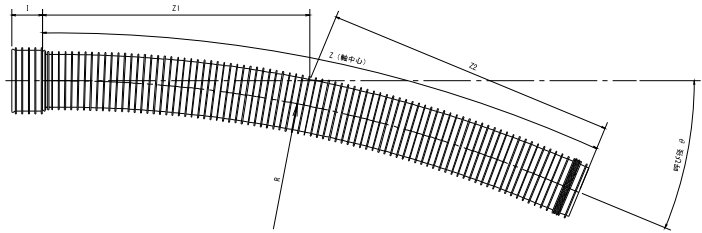
- タックコート
- × ブライムコート

図 名	舗装復旧工詳細図・市道		
分 類	H	図 番	402
改訂年月日	平成 22 年 4 月 1 日		

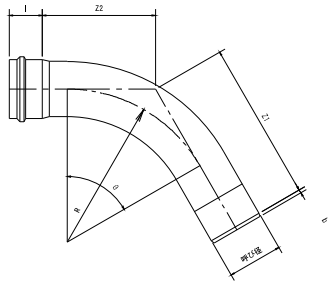
曲管標準図

S=1:10

曲管一般図（リブ管）

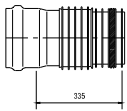


曲管一般図（VU）

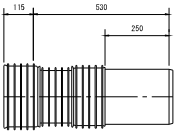


変換継手（φ200）

VU受口-リブ差し口



リブ受口-VU差し口



VU曲管寸法表（φ200）

θ	Z1	Z2	L	R	b
5° 5/8	306	126	130	600	13
11° 1/4	336	156	130	600	13
15°	356	176	130	600	13

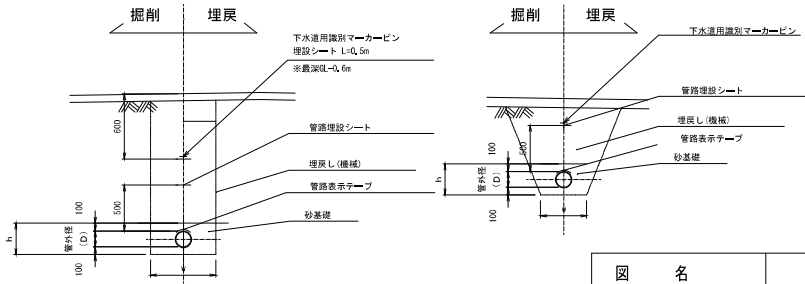
※R=600は、θ=15°未満とする。

リブ曲管寸法表（φ200）

θ	Z	Z1	Z2	L	R
22° 1/2	2160	1045	1140	120	5000

※θ=45°の場合は、θ=22° 1/2の製品2個を連続使用する。

土工標準断面図



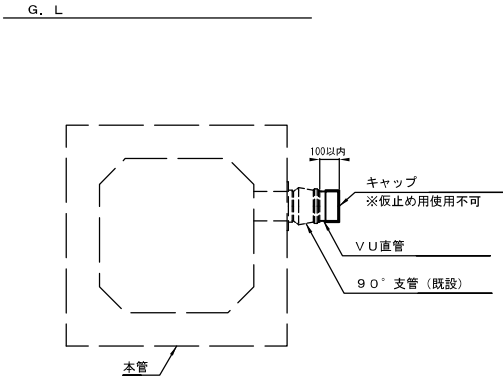
※下水道用識別マーカージンは、管路の屈曲部に垂直に設置する。  
※屈曲箇所には、下水道用識別マーカージンの笠部分をGから60cmの位置に設置する。ただし、土被りが50cm以上90cm以下の場合は管頂部から30cm、土被りが50cm未満の場合は、管の直上に設置する。  
※下水道用識別マーカージンは、埋設シートL=0.5m以上と共に設置する。

※舗装部を掘削する場合は、舗装構成に準じて復旧する。

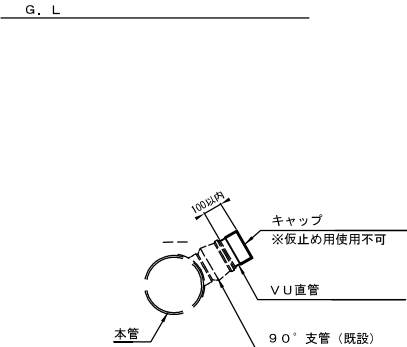
図名	曲管標準図		
分類		図番	010
改訂年月日	平成29年9月1日		



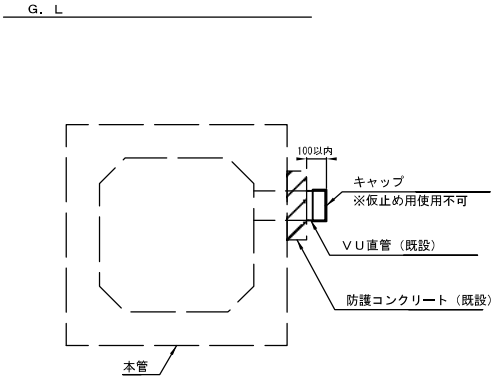
ボックスカルバート  
(支管)



円形管



ボックスカルバート  
(防護コンクリート)



- ※注意事項
- ・ 接着剤を確実に塗布し直管へ密着させ、キャップ部から漏水しないようにすること。
  - ・ 直管部は、既設支管又は既設防護C oからキャップを含め100mm以内とすること。

図 名	取付管撤去参考図		
	分 類	図 番	220
改訂年月日	令和 3 年 4 月 1 日		